



愛隣幼稚園.....

園だより

.....19.9月

「わくわく」と「台風」と

9月の始まりは、「まさかこんなことになるとは・・・。」という台風の被害に驚く想定外のスタートとなりました。「園だより」もお届けが遅れてしまいました。私もこの台風による停電と断水に見舞われました。今日もまだ復旧の見込みが立たず、辛い生活を強いられている方がたくさんいらっしゃることを思うと、1日も早い復旧、変わらぬ日常が戻ることを心から祈るばかりです。

さて、この夏休み、愛隣幼稚園は初めて「わくわくルーム」（預かり保育）を実施しました。土日と幼稚園が休みの期間を除いて、毎日、何人かの子どもたちが幼稚園で夏休みを過ごしました。利用に際しては、普段の「わくわく」とは異なり、一定の要件にあたる場合に利用可能といたしましたので、やってくる子どもたちは多くても6、7人くらいで、少人数ののんびりした「わくわく」になりました。

今年度から愛隣は預かり保育を拡大しました。保育前8時からと夕方も18時まで、長期休業期間も一定の条件を設けての実施ということにいたしました。ご家庭の事情、お母さんの妊娠・出産、保護者の就労・就学など、利用の理由は様々でした。保護者会で優子先生からも話がありましたが、朝の預かりを最初に利用されたのは、妊娠初期のお母さんでした。始まったばかりの「わくわく」を早速使ってもらうことになり、役に立ててよかったと思いました。“お父さんが出勤前に子どもを幼稚園に送ってくれる”それで“子どもは少々早起きしなければいけないけれど、これでいつもと同じ園生活が守られて、お母さんも少しほっとすることができる”これが愛隣の考える子育て支援としての〈預かり保育〉だと感じました。

お子さんの幼児期を『愛隣で』と託していただきましたから、私たちはその子どもたちの幼稚園生活の安定と充実を図りたいと願っています。親（大人）の生活には様々な事態が起こります。それは予定外のことであつたりもします。そんな時でも子どもたちの生活が変わらず、少しでも安心して過ごすことができるようにと考え、私たちは預かり保育を拡大しました。夏休みもそのような必要の中で利用していただき、始まって数ヶ月ですが、愛隣が願っている役割を果たせているのではないかと考えています。しかし、同時に課題も見えてきました。

- ①長時間の園生活になる子どもたち（中でも特に年少の子どもたち）は昼過ぎには眠くなります。ところが幼稚園は午睡を考えた園生活ではありません。
- ②夕方のお迎えが遅くなる子どもたちはお腹が空きます。従来の「わくわくのおやつ」では足りません。
- ③連日の「わくわく」利用が続く保護者と、「わくわく」利用がない保護者との接点が少なくなります。

愛隣の願いは子どもだけでなく大人もよい仲間になることです。

先にも書きましたが、愛隣の「預かり保育」は、大人の生活が変化しても、子どもの生活が守られることを願って行っています。それが「子育て支援」だと考えるからです。預かり保育を拡大しても、“子どもファースト”という考え方は変わりません。ですから、午睡のことも、間食のことも、大人が仲間になることも、子どものより良い園生活のために、丁寧に考え対応していかなければならないと考えています。

幼稚園も保育園も、第1に考えるのは子どもの心と体の健やかな成長と発達です。そのために幼児への直接的な教育・支援を行い、同時に幼児の生活を支える保護者を支援します。台風が去っていった9日の朝、千葉市は保育園の原則休園を決めました。交通機関の不通、停電、断水・・・そのような状況下での開園は子どもを守る大人（保護者と保育者）の安全が確保できません。それは即ち子どもの命も守られないということです。子育てを支援するということは、第1に子どもを、そして子どもを守る保護者を支援していくことです。私は千葉市の判断を嬉しく思いましたが、皆さんはどのように考えますか。支援を提供する者も、受ける者も、子どもを中心において、その在り方を共に考えていきたいものだと思います。愛隣が目指すのは、小さい者が笑顔でいて、それで大人も笑顔になる支援です。